



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和2 年1 月20日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ トミヤマタスケアイタイ
団体名 とみやま助け合い隊
所在地
連絡先
フリガナ
代表者

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	とみやま助け合い隊
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	新規 ・ ☒ 継続 2 回目 / 【 令和 1 年度から】
課題	1. 地域の実情 ・当学区は、高齢化率が31、6%（令和1年11月末）と近隣他地区に比して高く、2025年時点では高齢化率は35%を超えるかと予想される。必然的に、高齢者の一人暮らし、高齢者のみ世帯が増加する。 ・公共交通機関はバスのみで、東西に通じる県道（西大寺線）を走る。住宅地域は県道を挟んで広く南北にも広がっている。地域内に総合病院はなく、住民は中心部にある総合病院を利用するケースが多い。スーパーマーケットは、いずれも県道沿いに立地している。つまり、県道沿いの住民は通院や買い物にたやすくバスを利用できるが、県道から南北に離れた地域に住む高齢者や障害者にとって、バス停まで歩くのはきつい。結果的に、当地区住民の日常生活は車への依存度が高く、高齢者が免許を返納すれば、不便度が一挙に上がる。（アンケート：「他地区への移住を考えている理由」として交通の不便を挙げる者が多い。） ・住宅は1戸建てが圧倒的に多く、日常的に草取りなどのメンテナンスが欠かせない。高齢化等による体力・運動能力の低下は、自宅の管理にも支障をきたす。 ・若年世帯にあっては、共稼ぎが当たり前となっており、家事、子育てについて手助けを求める声は多い。 2. 課題、 住民は世代を問わず、日常生活上の困りごとを抱えている。地域社会を維持・発展させる上において、この問題は放置できない。 3. 事業実施の必要性 「高齢者に限らず住民がいつまでも住み慣れたこのまちで住み続けられる」ためには、日常生活上の困りごとを支援する（通院や買い物時の付添、庭の草取りなど）システムの提供が不可欠である。

事業の目的	地域住民が抱える日常生活上の困りごと解決のための支援を提供することにより、 「住み慣れたこの富山でいつまでも住み続けたい」 「富山に住んでいて、良かった」 と誰もが考えるようなまちづくりを目指したい。
事業の内容	地域住民の日常生活における困りごと解決のための支援を実施する。 1. 本システムの概要 <pre> graph TD A[困りごと支援・依頼者] -- ① --> B[コーディネーター] B -- ② --> C[サポーター（事前登録済み）] C -- ③ --> A A -- ④ --> C C -- ⑤ --> B </pre> (説明) ①困りごと支援依頼者 → コーディネーターにTEL ②コーディネーター（5名。週単位で交代）→ サポーターを斡旋 ③サポーター（12月末、46名が登録済み）→ 支援を実施 ④依頼者 → サポート料を支払う ⑤サポーター → 支援の終了時に支援内容・時間・料金等を報告 ★ 特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業は対象外 ★ 有料・・・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加（一人につき） ★ 屋内作業・・・原則2人体制で行う。 ★ 事務手数料・・・サポート料が1000円以上の場合 → 20%（事務手数料）を当隊に振り込む。 (参考) 令和2年12月末1年間のサポート受付件数 合計 127件 内訳・草取り、剪定等庭の手入れ45件 ・ 病院、買い物等の付添35件 ・ 買い物代行 18件 ・ ゴミ出し9件 ・ 掃除・片付け9件 ・ 家修理3件 ・ パソコン指導2件 ・ その他6件
期待される成果・目標	期待される成果 1. 自助・共助意識の高揚 何かにつけ、「行政に頼る。行政のせいにする」では、本当のまちづくりにはならない。 自助・共助を基本として、住民自らが、住みやすいまちを作っていく（自らビジョンを描き、自らまちづくりに参加する）のが当たり前との雰囲気をつくりたい。 2. やさしさと素直さを表現（表に出す） 本来、人は「やさしさ」と「素直さ」を併せ持つ存在ではあるまいか。 他人の困りごとをサポートすることは、「やさしさ」の表現であり、サポートに対し「感謝」するのは「素直さ」の表現である。 本システムは、住民の本来持っている「やさしさ」や「素直さ」を表に出す機会を提供する。住民の「やさしさ」と「素直さ」が、随所に見られる、そのようなまち「富山」を目指したい。 目標 ・ 利用件数 200件（令和2年度） ・ サポーター登録 70名 ・ 財政基盤強化 特別会員確保 5会員

企画などの工夫	1. 毎月（原則）、コーディネーター会議を開催、本システムの利用状況や課題について、コーディネーター間で共通認識を持つと同時に、改善策を協議している。	
	2. 隔月に理事会（小地域ケア会議と兼ねて）を開催、助け合い隊の現状やコーディネーター会議での討議事項について報告するとともに、以後の運営について協議している。	
	3. 支援依頼について、全件記録している（依頼者名、サポーター名、依頼内容、サポーター料等）。システムのレベルアップには、データを基にした不断の検証が欠かせない。	
	4. サポーターに年賀状を出状する等、事務局とのコミュニケーションに留意している。サポーターのモラルの維持には、平素のコミュニケーションが大切と考えている。	
協働する団体等	団体名（新規に協働を予定） ・学区内の「高齢者いきいきサロン」 8サロン ・あっぱれ桃太郎体操会 ・学区内「老人クラブ」5クラブ ・恵風荘（ケアマネージャー） ・デイケアステーション「てんとうむし」 ・オーギー技研㈱	役割（期待） 支援ニーズ発掘 支援ニーズ発掘 サポーター紹介 支援ニーズ発掘 同上 サポーター紹介
事業の情報公開	※区づくり推進事業は、広く区民への情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。 本システムは、設立の主旨からして地域住民（中でも、支援依頼者、サポーター）への広報が大切と考えている。具体的には、下記を実施している。 1. マグネットシートを全戸に配布（実施済み） → 困った時は、まず電話！ 2. 「とみやま助け合い隊活動ニュース」の発行（年2回を予定） サポートの現状や利用者の声、サポーターの思いを知ってもらい、「気軽に電話！」「気軽にサポート！」の雰囲気を作る。 3. 「とみやま文化まつり」でのポスター展示 当隊に対して親近感を持ってもらう。 4. サポーター研修会議（募集説明会を兼ねて）を年2回開催 本システムの主旨や利用状況、サポートに当たって留意すべきこと等、全員が共通認識を持ってもらう。本システムについての口コミによる広報や新規サポーターの紹介（友呼び）を期待している。	
学区地区への広がり	(本来、学区全体を対象に実施している)	
前年度からの見直し	(前年度の事業成果) ・12月末1年間（平成31年1月～12月）の状況 サポート受付 合計 127件 サポーター登録 46人 (内訳) ・草取り、剪定等庭の手入れ45件 ・病院、買い物等の付添35件 ・買い物代行 18件 ・ゴミ出し9件 ・掃除・片付け9件 ・修理3件 ・パソコン指導2件 ・その他6件 (今年度注力したいこと) ・サポーター登録 目標 70人 ・支援件数 目標 200件 ・財政の充実 特別会員確保 目標 5会員	

充点	・広報誌「助け合い隊活動ニュース」(年2回)のタイムリーな発行 ← 前年 発行1回 (審査会での助言・コメント) ・具体的なサポート内容 上記「前年度の事業成果」を参照願います。 ・サポーターの選任基準 - サポーターについては、当システムの主旨を十分に理解した上で登録してもらうことは当然であるが、個々の人柄も重視したい。 - そこで、新規サポーターについては、単なる募集でなく、学区諸団体及びサポーターからの紹介を条件とした。(一般的な募集はしない) ・トラブル対応について ①サポート作業中の事故や車による事故・・・支援依頼者から該当の保険金以上の請求はしない旨の念書を取り付けている。 ②屋内でのサポート・・・必ず2名体制で行う。→ 万一の場合の証言者確保を考慮。 ③万一、トラブル発生の場合・・・事務局が前面に出て解決に当たる。 ・関係法令の確認 ①労働者派遣法 - 当隊とサポーターの間には雇用関係は存在せず、従って「労働者派遣法」は適用されないと判断。 ②道路運送法 - 通院あるいは買い物等の付添いで車による移送をともなう場合があるが、あくまでサポートの主旨が付添いである限り(単なる送迎でなく)、「道路運送法」は適用されない。(国交省・岡山事務所に確認済み)
次年度以降の予定	①次年度以後の活動計画 ・支援件数 目標 200件(前年 127件) - 具体的な支援ニーズ(例:引っ越し手伝い、大掃除等)を発掘するとともにそれをサポートできる体制(技術的、人数的に)を調える。 ・サポーター登録 目標70人 - 現役サポーターや地域諸団体(例:老人クラブ)に紹介を依頼する。(協働) - サポーターゼロ町内の撲滅を図る。 ・広報誌「助け合い隊活動ニュース」(年2回)発行体制の強化 →積極的に取材、平素からデータを蓄積する。 ・サポーター研修会の実施 → 共通認識を持ってもらう。モラルの維持を図る。 ②資金の確保について ■次年度も区づくり推進事業を申請する予定 □()年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策: ・広報誌への広告掲載助奨 4万円 (2回発行×2枠×1万円) ・コミュニティー協議会への助成依頼 ・特別会員の確保
その他PRしたい点	①公益財団法人 さわやか福祉財団(東京都港区)が所管する「連合・愛のカンパ基金」の平成30年度・助成団体に選定されました。 これは、当隊の活動が地域福祉の向上に貢献すると評価されたものです。 ②「第4回おかやま協働のまちづくり賞」に入賞しました。

令和2年度 事業スケジュール

月 日	活動内容
4月	2日 助け合い会い隊 理事会、 2日 コーディネーター会議
5月	未定 コーディネーター会議
6月	4日 助け合い会い隊 総会（活動報告、活動計画、決算、予算） 4日 コーディネーター会議 未定 サポーター研修会議・募集説明会 2回
7月	未定 コーディネーター会議
8月	未定 助け合い会い隊 理事会、 未定 コーディネーター会議 未定「とみやま助け合い隊・活動ニュース」発行（上期号）
9月	未定 コーディネーター会議
10月	1日 助け合い会い隊 理事会、 1日 コーディネーター会議
11月	未定 コーディネーター会議
12月	3日 助け合い会い隊 理事会、 3日 コーディネーター会議
1月	未定 コーディネーター会議
2月	4日 助け合い会い隊 理事会、 4日 コーディネーター会議 未定 とみやま助け合い隊・活動ニュース」発行（下期号）
3月	未定 コーディネーター会議

収 支 予 算 書

◆収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	136,800	79,000	158,000円×50%
実施団体負担金	4,266	29,000	
参加者負担金			
協賛金			
寄付、他収入	30,000	50,000	別紙 積算①を参照
計	171,066	158,000	

◆支 出

単位:円

費 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	67,764	21,000	別紙 積算②を参照
②食糧費	4,043	8,000	会議用お茶@80円×100本
③印刷製本費	33,540	72,000	別紙 積算③を参照
④燃料費			
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費	49,969	52,000	別紙 積算④を参照
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料			
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料	15,750	5,000	福祉総合サービス補償保険 総稼働日数180日×@28円
⑮旅費			
⑯その他			
計	171,066	158,000	

◆概算交付の要否 (いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	希望しない
-----------	------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・通信運搬費・広告料・手数料・使用料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※様式に入力される場合は、収入・支出欄は、エクセルのワークシートになっています。欄の上でダブルクリックして、ワークシートを表示させてから入力してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。